

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社
MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ ×
公益財団法人 日本手芸普及協会
特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン



「世界の子どもたちへ編み物作品を贈ろう」プロジェクトは、MS&AD インシュアランス グループ社員が毎月給与の100円×任意口数を拠出して社会貢献活動を行う団体「MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ」が1992年に始めた活動である。「あなたたちを忘れていません」というメッセージを現地の子どもたちに伝えることを目的とし、中古の衣類を寄付するのではなく、子どもたちにプレゼントするために新たに作品を編んでいる。

2016年までの25年間にセーター22,290枚、マフラー16,424本、帽子等17,250個など、累計55,964作品を、チェルノブイリ、ロシア、サハリン、旧ユーゴスラビア、モンゴル、パキスタン、ベトナム、アフガニスタン、そして、東日本大震災被災地と、その時々が必要とする国や地域に届けてきた。公益財団法人日本手芸普及協会、(特非)ワールド・ビジョン・ジャパンと三者による協働で運営され、(株)日本ヴォーグ社、(株)NV ロジテック、(株)元廣(毛糸メーカー)、オムロン(株)(ボランティア協力)等、多くの企業・団体の協力により成り立っている。

三者協働となったのは、2002年、集まる作品数が増大し、輸送方法を変える必要に迫られたことがきっかけで、衣類寄付の実績があるワールド・ビジョン・ジャパンに協力を要請し、モンゴルへの支援が始まった。その際に両者連名でニュースリリースを行ったところ読売新聞に大きく掲載され、それを読んだ日本ヴォーグ社の社長から「協力できることがあれば」との連絡があり、同社が協賛する日本手芸普及協会が束ねる編み物教室のネットワークの協力、webサイト「手づくりタウン」での呼びかけ、(株)NV ロジテックの倉庫と輸送力の提供などが実現し、一気にプロジェクトの規模が拡大した。編み手ボランティアの輪は、MS&ADグループ社員の枠を超えて、全国の編み物教室、学校・企業単位、個人の編み手約1,060名(2016年度)に拡がり、今や編み物という趣味を活かした全国規模のボランティア活動に発展した。

編み物をしないMS&ADの社員は、セーター用ネームタグの作成、作品の梱包と送り出し等のボランティアを積極的に行う一方、輸送費を賄うために一般市民にも作品1点につき700円相当の金券の寄付という負担をしてもらうことで持続可能な活動となっている。また、編み手を増やす取組みとしては、2013年にMS&ADグループ社員の自主的な「ニットサークル」が立ち上がり、毎月1回、立上げ当初からの指導者に習いながら作品を編んでいる。他企業や近隣からの参加もあり、無理のない社会貢献活動として好評を得ている。



その後2009～2015年はベトナムを支援。三井住友海上ベトナム現地法人がワールド・ビジョン・ベトナムとともにベトナム北西部の山岳地方ディエン・ビエン省に赴き贈呈式が行われ、小4の男の子の「帽子とマフラーをもらってすごくうれしかったです。これで冬でも寒くないです。贈ってくれた日本の方たちに感謝します。皆さんの健康をお祈りします」という挨拶の言葉は、関係者全員にとって温かいプレゼントとなった。

2016年度は、より厳しい状況にあるアフガニスタンを支援することとした。運営についての協議を重ねるなか、寄贈先のワールド・ビジョン・アフガニスタンが運営するヘラート・ストリート・チルドレン・センターから「見過ごされ、忘れられがちなアフガニスタンのストリート・チルドレンへの贈り物に言葉で言い尽くせないほど感謝しています。子どもたちや家族が得られる収入は少なく、暖かい衣料を買うことはできません。日本の方たちから頂く手編みセーターは、子どもたちを厳しい冬の寒さから守り、そして、彼らが一人じゃないこと、気にかけてくれる方がいることを実感させてくれるでしょう」という言葉が届き、活動への原動力となっている。

第2回企業ボランティア・アワード受賞
(2017年3月1日)